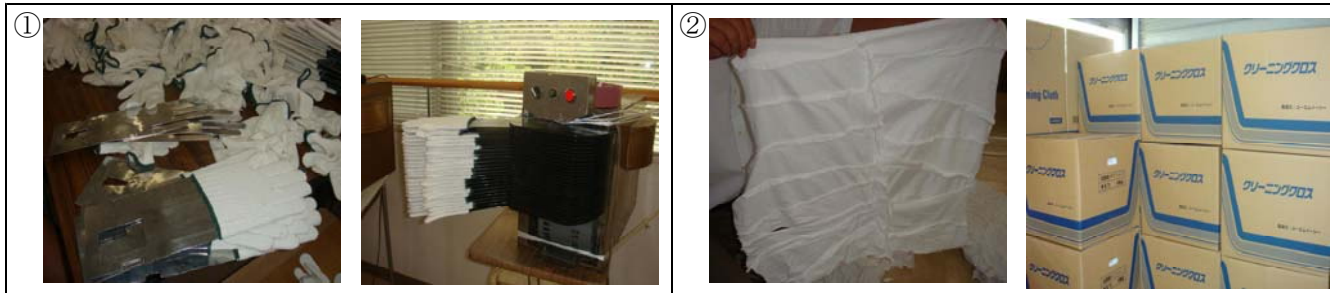


## ◎教職員施設見学の様子 ～ 7月22日から8月4日 ～

(1) 吉備路学園の活動班には「生活班」「加工班」「家政班」「農園班」がありますが、今回の施設見学で、活動の様子を見学した「加工班」と「家政班」について報告します。

「加工班」では、①軍手の「むだ糸」の処理をする作業や、②機械の油などを拭き取るための布の梱包作業、③フルーツネットの結束作業などを行っていました。



また、「家政班」では、④使えない軍手を使ってかわいい小物を作る作業も行っていました。責任をもってきばきと作業をこなされている方、一針一針丁寧に作品を作っている方の姿を見ることができました。

(中学部 難波 保雄)

(2) 研修で卒業後の進路について学ぶ機会が多くありましたが、今回の施設見学では、更生施設、授産施設、就労移行支援事業所の3種類の施設・事業所を実際に見ることができました。

どの施設・事業所もそれぞれに特色がありましたが、共通していたことは、自分の住んでいる地域で生活していくために必要な知識・技能や今後の就労に向けて仕事の厳しさを学んでいることでした。

施設見学を通して特に印象に残っていることは、いろいろな可能性を信じて「やってみよう」という言葉です。小学部の時からいろいろなことにチャレンジして、経験を広げていくことの大切さを学ぶことができました。

(小学部 森上 朋子)

(3) 今回の施設見学で感じたことは、自立支援法施行に伴い、どの施設も大変な状態でありながらも、将来を見据えた活動をされているということです。また、いろいろ見学させていただいて、施設ごとの雰囲気や作業内容などが全く違い、実際に行ってみて体験しないとわからないこともあり、大変勉強になりました。

また、卒業生が学校では見られなかった表情で過ごしており、大勢の教員が突然現れ、驚きながらも、照れたように黙々と作業している姿がほほえましかったです。生徒ではなく、社会人となった姿が見られました。

見学させていただく中で、この作業はあの生徒に向いているかな、この施設だったら、他の方と助け合いながら協力して過ごせるかなと、生徒一人一人の顔が思い浮かんできました。実際にバリ取りなどの作業を体験させていただくと、細かなものもあり、なかなか難しかったです。進路先決定まで残り少ない高等部の生徒にとって、限られた学校生活の中で、日常生活も含め、身につけることができる力はしっかり身につけて卒業してほしいです。作業内容や通勤・送迎の問題、いろいろと考えた上で、その生徒に合った進路を見つけることができたかと考えます。実際に行って、施設の雰囲気を感じるというのは、とても貴重な体験でした。(高等部 碓 加代)